羽昨工高新聞

第134号

発行所
石川県羽咋市西釜屋町
石川県立羽咋工業高校
TEL (0767) 22－1193

編集兼発行
羽咋工高生徒会新聞部

第53回卒業式挙行

祝　卒　業

アンテナを高く！

校長　塩田憲司

アンテナ【antenna】（大辞林 第三版の解説より）
①空間に電波を放射したり、空間を伝わって来た電波をとらえたりする装置。空中線。
②（比喩的に）必要な情報をとらえる手段となるもの

生徒の皆さんがこの羽工高新聞を手にする頃は「三年生が本校を巣立つ時」、そう考えると感慨が込み上げてくる。校長職は集会等の挨拶で生徒全体に語りかける機会はあるものの、直接生徒一人一人と長く会話をする機会はそう多くはなく、就職・進学試験の際に校長室で行った一対一の面接練習などは私にとって楽しい時間であった。そのときの質問の一つで「最近の世の中で起こった出来事で新聞やニュースで印象に残っていることはありますか、またそれについてどう思いますか？」と尋ねると、（予想通り？）出来事については述べるものの、さらに突っ込むとその理解の浅さが露呈する。ついつい時間を忘れて「それにはこんな背景や課題があって、貴方の志望とこんな関係があるのでは」と語り始めてしまう、素の教師の自分がいた。

もう数年も前に亡くなった伯父から「元旦の各新聞社の社説を読む事が楽しみで、毎年、元旦に買って綴り続けている」という話を聞いた。元旦の各新聞社の社説には、新たな年のスタートに当たり私たちを取り巻く社会や経済にどのような傾向や課題があるかということが、新聞社それぞれの視点で捉えられていて、対比して読むと興味深い。私もその話を聞いてから伯父の真似事をしている。今年の元旦も朝六過ぎに駅に新聞を買いに出かけた。（ネットでも情報は取れるが）手元には、とりあえず地元紙の北國・北陸中日、全国紙の朝日・讀賣・毎日・日本経済・産経の七社の新聞の切り抜きがある。参考に見出しを中心に書いておくと、

北國：北陸新幹線開業三年目の課題　工芸と「マイス」で磨きを
北陸中日：不戦を誇る国であれ　年のはじめに考える
朝日：憲法70年の年明けに「立憲」の理念をより深く
讀賣：反グローバリズムの拡大防げ
毎日：歴史の転機〈日本の針路は世界とつながってこそ〉
日本経済：揺れる世界と日本〈自由主義の旗を守り活力を取り戻せ〉
産経：自ら日本の活路を開こう

少し前置きが長くなったが、卒業する三年生、そして在校生に対して伝えたいのは「関心を持つ」と言うこと。自分の身の周りの出来事はもちろん、県内、国内そして世界で起きている出来事にも関心を持って欲しい。アンテナを高く立てて、情報を主体的に捉えていって欲しい、そして情報を発信できる人であって欲しい。自分たちの日々の営みは、目に見えたり見えなかったりするが様々な形で繋がっているはず、アンテナを高くして情報を捉えたり発信することは、自分の視野を拡げ、自らの進路を切り開いていく上でも重要なことである。学校での様々な学習や経験が、学校の中だけで通用するものであったり、社会に出たときに応用できない、閉塞したものであってはいけない。それらが社会と繋がっていることを、アンテナを高くして感知して欲しい。そのためにも、新聞は情報を得るための有効なツールの一つである。

昨年六月一九日、公職選挙法等の一部を改正する法律が施行され、年齢満一八年以上満二〇年未満の者が選挙に参加できるようになった。卒業する三年生の中には昨年の参議院選挙で投票した生徒もいる。学校における政治的教養の育成がより一層求められてきている。政治に関心を持つと言うことは、自分たちの暮らしや自分たちを取り巻く社会や経済にしっかりと目を向けるということである。

ある集会で生徒の皆さんに、自主的と主体的の違いについて私見を述べたことがあるが、覚えているだろうか。ぜひ、周囲との関係性に気を配りながら、主体的に物事を考え、判断し、行動できる人に成長して欲しいと願っている。

感謝

実習教諭　文後　貢

母校、羽咋工業高校に通算で三十六年間勤務させて頂きました。高校時代を含めると三十九年間、サンキュウです。ようやく卒業します。

誰もが唯一、平等に与えられている〝時間〟ですが、しっかり使うのは非常に難しいものです。片手のカウントダウンが始まってから一年一年が加速していく様に、本当に早く感じられました。

沢山の先生方や職員、生徒に育てて頂きました。特に土木科、土木コースの生徒、ラグビー部員、やんちゃで、少し素直で活発で、少し純粋な工業健児たちに（ここ数年はやんちゃでエネルギッシュな生徒が少なく感じられ、ラグビー部も非常に厳しい状況である）。チーム羽工に育てて貰いました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

年末のTVで【もし、過去の自分に伝えることができるとすれば、何時の自分に何を伝えたいですか？】というコーナーがあり、視聴しました。

私も還暦を迎えた今、何時の自分に何を一番伝えたいか、想ってみました。それはやはり、ラグビー部の部活動に明け暮れた高校時代の自分です。北陸の強豪校で全国大会にも出場している部だとは全く知らず入部した、自分に…

・監督の先生、外部コーチの練習メニューや意図を聞き流し、淡々と練習をこなしているだけじゃだめだ！もっと練習の意図を理解し、試合をイメージしてやらんかい！
・やらされているだけや！自分からもっと積極的にやれ！自分でもっと考えろ！
・力をセーブしてないで、もっと最初から出し切れよ！
・練習中の声も監督、試合に向かう気持ちも監督に創ってもらっている。それで勝てるか？
・エンジンを掛けてあげて、暖機してあげて、ギアを入れてあげて、アクセルまで踏んであげないと走れないって情けない、辞めろ！
・もっと勉強しとけ！真剣に勉強したのは、試験一週間前だけや！後で苦しむぞ！資格も取らされているだけ！自分で判断しろ！自分から挑め！
・実験、実習も真剣に取り組めよ！後で教える立場になるぞ！

…こんな感じかな。

高校三年次に全国大会に出場。初戦、国体開催県チームに快勝し、気持ちが緩んでしまった。二回戦は、挑む気持ちがあれば勝てる相手であったが、完敗した。

時間を戻して、もう一度、高校一年生からラグビーと勉強をやり直したい気持ちです。

違うステージに立てたかもしれない。後に完璧に嵌まってしまうスポーツに、最初からもっと一生懸命に取り組めばよかった。半端なく3K（キツイ・キタナイ・キケン）スポーツで、本当に厳しく、苦しく、時には、理不尽な毎日に耐え抜くのに精一杯で、ラグビーの魅力に嵌まるまで少し時間が懸かり過ぎたのか、耐え抜いたから好きになったのか。その中で、一生、付き合える仲間と、我慢すること。そして、忍耐力が付いたのは間違いない。

最後に〝JAPAN・WAY〟を創造した元日本代表ヘッドコーチ、エディージョーンズの言葉を載せて終わります。

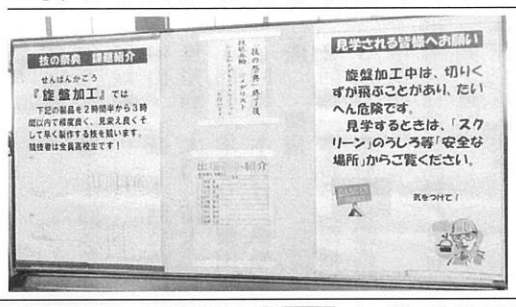
【当たり前のことを当たり前以上にできる選手は活躍できる。社会に出ても頑張れる。ゴミが落ちていたら拾う、汚れていたらサッと拭く、そういう〝気づき〟が大事だ。常に変化に気づいてすぐに行動を起こす。誰にでも出来る。】

【真のゴールとは〝日々向上すること〟自分を向上させる意志さえあれば練習する度に上達し、強くなれる。】

皆さんが継続している〝一日一善〟にも繋がります。私のように後悔しないよう、限りある時間を一生懸命になれることに惜しみなく使うように。頑張ってください。

ラグビーに感謝
ラグビーフットボールをさせてくれた
〝チーム羽工〟に感謝！

2016 課題研究発表会



平成二十八年一月二十一日（土）にコスモアイル羽咋にて、平成二十八年度課題研究公開発表会が行われました。会場には、企業・教育関係者の方々をはじめ、中学生の皆さんや保護者・一般の方々が参加されました。

この課題研究公開発表会では、三年間のまとめとしてそれぞれの研究成果を発表・展示しました。以下に、参加された方々の声を掲載しました。

《企業の方々の声》
●テーマの選択目的が弱いと感じました。●スライドの中で文字が小さく、見にくいものがありました。

《保護者・一般の方々の声》
●発表内容と態度が大変良かったです。●孫を入学させたいと思いました。●挨拶の声が大きく、気持ちよく感じました。●地域と密着した工業だということがわかりました。●社会に出ても地域の発展のために頑張ってください。

《中学生の声》
●専門的な言葉が多く、理解できない部分がありました。●作品の展示を見させてもらいましたが、どれもすごかったです。●動画があり、わかりやすかったです。●どの科もプレゼン内容がよく、発表にきてよかったです。●高校生活の苦労が伝わってきました。工業高校で学びたいと思いました。

平成28年度 課題研究発表会各科テーマ

科　名	発表テーマ
電子機械科	～マイコンカーの製作～
	～ゴミ集積サイト（ごみステーション）の製作～
	～技能検定・技能まつりに挑戦～
電　気　科	～風船バレー得点板の製作～
	～電気工事工法の研究～
	～相撲ロボットの製作～
建設造形科〈建　築〉	～木材加工の研究～
建設造形科〈土　木〉	～注意喚起のための標識製作～
建設造形科〈デザイン〉	～立体造形（地域貢献と照明器具）～

修学旅行

平成二十八年十一月十五日（火）から十八日（金）の四日間、二年生が修学旅行で沖縄に行ってきました。

一日目は、東京で企業見学をし、その後、沖縄で班別自主研修をしてきました。二日目は、ひめゆり平和祈念資料館、やんばる憩いの森、美ら海水族館に行ってきました。二日目から三日目のにかけては、読谷村の各家庭にわかれ、民泊を体験してきました。二日目の午後は、シュノーケリングやドラゴンボートなどのマリンスポーツを楽しみました。四日目は、守礼門・首里城公園に行き、羽咋工業高校に帰ってきました。日常生活では経験のできないことができた、充実した四日間の修学旅行となりました。

以下に、修学旅行を終え帰ってきた二年生のアンケート結果を掲載します。

《沖縄について》
●違う国へ行ったみたいで楽しかった。●また行きたい。●気候が丁度よくて過ごしやすかった。●四日間晴れてよかった。●あと三日追加でもよかった。●沖縄の文化に触れられてよかった。

《民泊について》
●民泊でとてもいい経験ができた。●不安ばかりの民泊だったが、終わってみるといい経験ができたと思います。●民泊先の人と仲良くなれた。●自然体験と民泊がすごく楽しくてよかった。●一番良かったのは民泊でした。いろんなことを教えてくれました。●離村式は感動しました。●リゾートホテルがよかった。

《ガイドさんについて》
●ガイドさんのおかげで移動中も暇ではありませんでした。

《その他》
●ひめゆりで見たDVDが心に響きました。